

「情報公開文書」

パーキンソン病およびパーキンソン病関連疾患に対するLSVT®BIGの 長期有効性と安全性

1. 研究の対象

2012年10月～2024年4月に当院でLSVT®BIGのリハビリテーションを受けられた方、および同時期にリハビリテーション目的に入院された方

2. 研究目的・方法

【目的】

LSVT®BIGはパーキンソン病に特化した運動療法であり、歩行能力やバランスなどの運動機能改善効果が期待されるリハビリテーションプログラムです。LSVT®BIGによる運動機能などの効果、さらにはその効果の持続性について検討することが目的です。また、リハビリテーション実施後の病状を把握することで、安全性とともに、長期的なりハビリテーション戦略についても検討を行います。

【対象】

2012年10月～2024年4月に、当院でLSVT®BIGを受けられた方
同時期にリハビリテーション目的に入院された方

【方法】

- ・LSVT®BIGの実施前後での有効性評価、実施期間中の安全性評価
- ・LSVT®BIGを複数回実施した方における有効性と安全性
- ・LSVT®BIG実施後の病状変化を追跡します

【研究期間】

2024年4月審査承認後から2029年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

電子カルテに記載されている診療情報（以下に記載）

リハビリテーション評価項目

LSVT®BIG 前後での有効性評価項目（10m歩行など）、および各種運動機能評価項目（Brief-BESTest など）、QOL 評価（PDQ-39、患者満足度など）、作業療法（UPDRS part2、簡易上肢機能検査など）や言語療法での評価項目（LSVT®LOUD 実施者はその有効性評価項目（発話明瞭度、音圧など）など）

患者臨床情報

年齢、性別、罹病期間、Hoehn&Yahr ステージ、内服薬（抗パーキンソン病薬）、UPDRS スコア（part1-4）、Wearing-off やジスキネジア合併の有無、認知機能評価（Mini-mental state examination など）、前頭葉機能（Frontal assessment battery など）、呼吸機能検査など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒616-8255 京都市右京区鳴滝音戸山町 8

独立行政法人 国立病院機構 宇多野病院

リハビリテーション科 林 直輝（研究責任者）

TEL (075) 461-5121 (代表)